



赤ちゃん、馬小屋、羊飼、飼葉桶、布など、クリスマスのできごとに登場するすべては、弱さ、小ささ、貧しさを表しています。

戦後80年を迎えましたが、世界は今年もまた戦いに明け暮れました。ロシアとウクライナ、イスラエルとハマス、ヒズボラやイエメンのフーシ派など挙げればきりがありません。いや私たち東アジアも危機一発の状況です。口では平和を語りながら、実際は力を渴望します。それは国や政治家だけではありません。私たちは今こそ、完全に無力となられたイエスキリストに表されている真の力に目を向けなければなりません。

① 力を求める私たち

“主は言われる。

「この民は口先で近づき

唇で私を敬うが

その心は私から遠く離れている。

彼らは私を畏れるが

人間の戒めを教えられているにすぎない。」” イザヤ書29:13、教会共同訳

② 無力になられた神を見よ

“キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。

キリストは、神の御姿であられるのに、

神としてのあり方を捨てられないとは考えず、

御自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。

人としての姿をもって現れ、自らを低くして、

死にまで、それも十字架の死にまで従われました。” ピリピ2:6-

“マリヤは…男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。” ルカ2:7

③ この世の力から真の力に

“しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいます。というのは、私が弱いときにこそ、私は強いからです。” コリント第二12:9-

